



十一月(小)

しもつき

壁宿

(十一月七日立冬の節より)
月命乙亥五黄土星の月
暗剣殺 なし

旧十月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	金	つちのとみ	一白	●朔二時四七分、灯台記念日、教育文化週間、新米穀年度計量記念日、己巳 唐津くんち、大つち、三隣亡、一粒万倍日	朔	佛滅	あやぶ	妻	母倉	6.03 16.46	6.04 16.45	5.36 16.21	4.57 16.22
2日	土	かのえうま	九紫		二	大安	なる	胃	母倉	6.04 16.45	6.05 16.44	5.36 16.21	4.57 16.22
3日	日	かのとひつじ	八白	●文化の日、明治神宮例祭、東京足立皿沼不動万灯祭	三	赤口	おさん	昂	大まやう	6.05 16.44	6.06 16.43	5.32 16.43	4.57 16.22
4日	月	みづのえさる	七赤	振替休日、消費者センター開設記念日、不成就日	四	先勝	ひらく	畢	大まやう	6.06 16.43	6.07 16.42	5.32 16.43	4.57 16.22
5日	火	みづのとてり	六白	一の酉、世界津波の日、一粒万倍日	五	友引	とづ	觜	神よし	6.07 16.42	6.08 16.41	5.32 16.43	4.57 16.22
6日	水	きのえいぬ	五黄		六	先負	たつ	参	くま日	6.08 16.41	6.09 16.40	5.32 16.43	4.57 16.22
7日	木	きのと	四緑	立冬七時二〇分、三隣亡、旧亥の子餅、世界都市計画の日、ふいご祭、京都伏見稲荷火焚祭	七	佛滅	たつ	井	ちいみ	6.09 16.40	6.10 16.39	5.32 16.43	4.57 16.22
8日	金	ひのえ	三碧	●上弦一四時五分、太陽暦採用記念日、一丸番の日、秋の全国火災予防運動15日迄、島根出雲大社神迎祭、とおかんや、小つち、京都嵐山紅葉祭、京都空也堂開山忌	八	大安	のぞく	鬼	ぶく日	6.10 16.39	6.11 16.38	5.32 16.43	4.57 16.22
9日	土	ひのと	二黒		九	赤口	みつ	柳	大まやう	6.11 16.38	6.12 16.37	5.32 16.43	4.57 16.22
10日	日	つちのえとら	一白	京都松尾大社上卯大祭、世界平和記念日	十	先勝	たいら	星	大くわ	6.12 16.37	6.13 16.36	5.32 16.43	4.57 16.22
11日	月	つちのとう	九紫	不成就日	十一	友引	さだん	張	百事吉	6.13 16.36	6.14 16.35	5.32 16.43	4.57 16.22
12日	火	かのえたつ	八白		十二	先負	とる	翼	天おん	6.14 16.35	6.15 16.34	5.32 16.43	4.57 16.22
13日	水	かのと	七赤		十三	佛滅	やぶる	軫	天おん	6.15 16.34	6.16 16.33	5.32 16.43	4.57 16.22
14日	木	みづのえうま	六白		十四	大安	あやぶ	角	神よし	6.16 16.33	6.17 16.32	5.32 16.43	4.57 16.22

全国的な秋晴れはこの月に多いが、別称「霜月」といふように、北のほうから寒冷前線が下がってきて、局地的には天候が悪化した、月半ばには霜が降りることがある。

立冬がすぎると、駆け足で冬がやってくる。健康上や家事の上で冬を迎える準備に怠りがないようにチュエツクしよう。

〔冠〕十五日は「七五三」の宮詣りの日である。両親に連れられて、氏神様や名のある神社に参拝する日であるが、この「七五三」の慣行は歴史的にはそんな子古くはない。しかし女の子七歳(帯結び)、男子五歳の祝い(袴着け)は、それぞれ独立して格式高い家庭で行われていた。また、男児、女児の三歳は乳幼児期を無事に過ぎ、少年期へ成長するわが子に対する親心の現れであろう。本来、わが子の息災と加福を祈る素朴な祈願が、近時はやたら

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
15日	金	みのとひつじ	五黄	七五三、本州・四国・九州一般鳥獣狩猟解禁	十五	赤口	なる	亢	天おん	6.17 16.34	6.18 16.33	5.11 15.51	4.27 15.51
16日	土	きのえさる	四緑	●望六時二九分、豊川稲荷秋季大祭、十方ぐれ入り	十六	先勝	おさん	氏	●	6.18 16.34	6.19 16.33	5.11 15.51	4.27 15.51
17日	日	きのと	三碧	二の酉、将棋の日、奈良談山神社例祭、市川中山法華経寺御会式、一粒万倍日	十七	友引	ひらく	房	十し	6.19 16.33	6.20 16.32	5.11 15.51	4.27 15.51
18日	月	ひのえいぬ	二黒	一粒万倍日	十八	先負	とづ	心	五む日	6.20 16.32	6.21 16.31	5.11 15.51	4.27 15.51
19日	火	ひのと	一白	一茶忌、三隣亡	十九	佛滅	たつ	尾	大まやう	6.21 16.31	6.22 16.30	5.11 15.51	4.27 15.51
20日	水	つちのえね	九紫	旧えびす講、旧誓文払い、不成就日	廿	大安	のぞく	箕	くま日	6.22 16.30	6.23 16.29	5.11 15.51	4.27 15.51
21日	木	つちのとうし	八白	京都東本願寺報恩講(28日迄)、近松忌	廿一	赤口	みつ	斗	くま日	6.23 16.29	6.24 16.28	5.11 15.51	4.27 15.51
22日	金	かのえとら	七赤	小雪四時五六分	廿二	先勝	たいら	牛	大くわ	6.24 16.30	6.25 16.29	5.11 15.51	4.27 15.51
23日	土	かのと	六白	●勤労感謝の日、熊本八代妙見祭、防府天満宮裸坊祭、下弦一〇時二八分、笠間稲荷神社秋祭	廿三	友引	さだん	女	神よし	6.25 16.30	6.26 16.29	5.11 15.51	4.27 15.51
24日	日	みづのえたつ	五黄		廿四	先負	とる	虚	大まやう	6.26 16.29	6.27 16.28	5.11 15.51	4.27 15.51
25日	月	みづのとみ	四緑	神道修成派教祖教霊大祭、天一天上	廿五	佛滅	やぶる	危	ちう日	6.27 16.28	6.28 16.27	5.11 15.51	4.27 15.51
26日	火	きのえうま	三碧		廿六	大安	あやぶ	室	神よし	6.28 16.27	6.29 16.26	5.11 15.51	4.27 15.51
27日	水	きのとひつじ	二黒		廿七	赤口	なる	壁	大まやう	6.29 16.26	6.30 16.25	5.11 15.51	4.27 15.51
28日	木	ひのえさる	一白	税関記念日、親鸞聖人忌、不成就日、東京品川千体荒神大祭	廿八	先勝	おさん	奎	●	6.30 16.25	6.31 16.24	5.11 15.51	4.27 15.51
29日	金	ひのと	九紫	三の酉、一粒万倍日	廿九	友引	ひらく	婁	十し	6.31 16.24	6.32 16.23	5.11 15.51	4.27 15.51
30日	土	つちのえいぬ	八白	岡山最上稲荷火焚祭、一粒万倍日	卅	先負	とづ	胃	くま日	6.32 16.23	6.33 16.22	5.11 15.51	4.27 15.51

に華美におごり、お祭り事になり、虚栄の観が強いのはどういふものか。

〔祭〕三日は「文化の日」、戦前四大節の一つで「明治節」といい、明治天皇の誕生日である。その遺徳をたたえ文明・文化の記念日として各地でいろいろな文化事業の催しが行われる。戦後、憲法の改正があつて呼称は変わった。

二十三日は「勤労感謝の日」で、勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう日と制定されている。

この月の干支(えと)による西の日は「お酉さん」とも「酉の市」ともいって、驚(おおとり)明神の祭礼が行われる。開運の神として一の酉、二の酉、三の酉、と盛大であるが、三の酉まである年は、活気がありすぎて火事が多いといひ伝えられている。

この月の九日は「太陽暦採用記念日」である。これまでは旧暦という言葉がでてきたが、いま現在われわれが使っている何月何日という暦は、明治五年の十一月九日に採用された太陽暦以来である。